1F女子トイレ。ブース内には衣類着脱の際に使うベッドを設置。ドアは閉めたときにブース内に空間のゆとりができる回転式スライドドアに。汚物流しは、どのブースからも使いやすいようトイレの中央に配置。

兵庫県尼崎市
尼崎市立あまよう特別支援学校

トイレの自立は重要目標。訓練に欠かせないのはトイレ環境の整備

児童・生徒の安全のためまずは広さを確保

尼崎市立あまよう特別支援学校は、市内の肢体不自由の児童・生徒を教育対象に、小学部、中学部、高等部を設置しています。

2019年1月に、西宮市田近野町にあった尼崎市立尼崎養護学校を、市内の小学校の跡地に新校舎を建てて移転。校名も「尼崎市立あまよう特別支援学校」に一新しました。

そもそも尼崎養護学校は、1960年に西宮市側の尼崎市の飛び地に建てられており、児童・生徒の通学面の負担や建物の老朽化が問題となっていました。そのため、市の中心部で病院も近くにある、現在の場所への新築移転が決まったのです。

設計の際に、旧尼崎養護学校で教鞭を執っていた職員が偶然教育委員会に在籍していたため、現場の経験が色濃く反映された校舎になりました。

「新しい施設を作るには視察が必要」と、その当時、兵庫県内にある新築または改築された肢体不自由特別支援学校3校の視察を行いました。トイレづくりに関しては、阪神地区にある特別支援学校から学ぶことが多かったそうです。

できあがった校舎には、肢体不自由のある児童・生徒が安全に学校生活を送れるようさまざまな工夫が凝らされています。

いちばん気を配ったのは広さです。いろんな姿勢を取る児童・生徒がいるので、教室の1人当たりの面積は2平方メートルを確保。フロアの廊下の幅も、車いすのすれ違いが余裕を持ってできるよう広々としています。

また、防災倉庫には、災害時に保護者がすぐに迎えに来られないケースを想定し、毛布などの通常の備蓄品の他、児童・生徒ごとに1泊分の個別ボックスを設置。各個人に必要な医療的ケア用品やケアの時間、取り扱い方法が書かれた用紙も収められています。

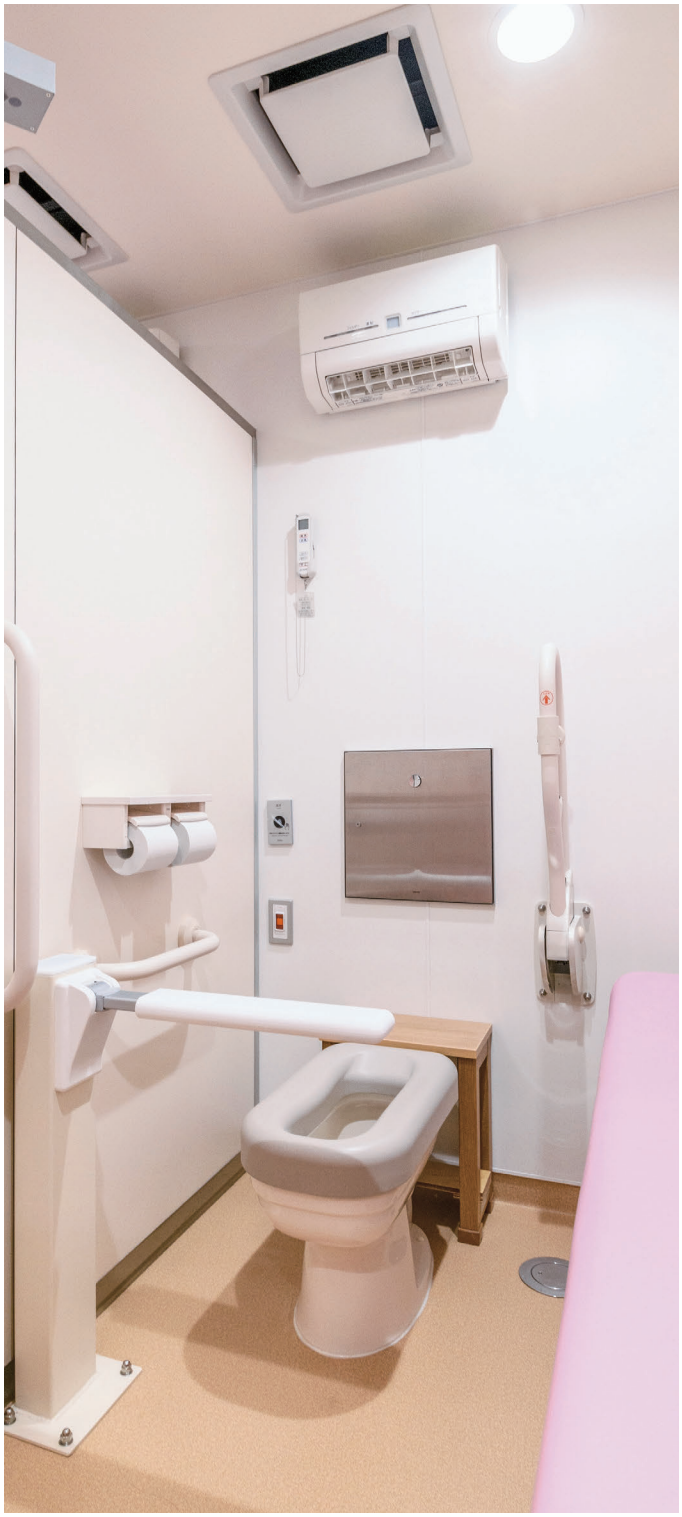
トイレの自立が卒業後の進路を左右する

「高等部を卒業した生徒は、トイレでの自立排泄ができると、進路

廊下に車いすを置くと避難経路の邪魔になるため、各フロアに車いすを置くスペースを確保（写真右側）。温水でも手洗い可能。

1F女子トイレの一つは、小学部低学年の幼児用大便器。便座が冷たいとびっくりする児童もいるので暖房便座に。介助者は対面する形で膝をつき、児童の体を支える。

自分で体を支えられない児童・生徒の場合、倒れないように介助者が後ろから抱きかかえる。そのため大便器の後ろに、介助者が座るいすを造作で設置（右写真参照）。



1F女子トイレのブース。排泄に時間を要したり、体温調節が難しい場合もあるため、ブースごとに空調を設置。バリアフリー便器には、クッション性がある補高（ほこう）便座をつけて。

の選択肢が広がる。自立を大目標とする中では、トイレトレーニングのためにトイレ環境を整えることがすごく大事です」

と語るのはあまよう特別支援学校の勘舎（かんじゃ）晃行教頭です。

そのため、トイレづくりにも注力しました。大切にしたのは児童・生徒の安全と安心です。

現在、全校児童・生徒56名中51名は全介助が必要です。トイレ利用の際は児童・生徒1人につき介助者2〜3人がつきます。車いす同士や人がぶつかる危険を避けるため、トイレのスペースも広く取っています。

各ブース内も同様です。安全に介助ができるように、車いすのまま入れて、介助用ベッドが置けるスペースを確保しています。空間の有効活用に役立ったのは、回転式スライドドアです。曲面になっているので、閉めた後も空間にゆとりができました。

各ブースには空調が設置されています。温度に敏感な児童・生徒もいて、寒いトイレや暑すぎるトイレではゆっくり排泄ができないからです。また、各トイレにはすぐにベランダに出られる避難用の非常口もついています。

1F男子トイレ。広い空間で車いすの取り回しがしやすい。すべてのブースに回転式スライドドアを設置。

男子トイレと女子トイレの間に設置したシャワー室。おむつ使用の児童・生徒の排泄後の洗浄などに利用。

1F男子手洗い。麻痺により手が伸ばせない児童・生徒もいるため、車いすのまま使え、シャワーがついた洗面台に。

1F職員トイレ横の多機能トイレ。オストメイト対応設備を使う児童・生徒は現在在籍していないため、一般利用がある多機能トイレにのみ設置。

1F女子トイレのブース。お尻を刺激しないと便が出ない児童・生徒もいるため、温水洗浄便座は必須。体重をかけられる可動式の前方バーを設置。

現場の声を聞いて設計に反映することが重要

「できあがった校舎の保護者向け見学会では、皆さんが満面の笑みを浮かべていたのが忘れられません。トイレも見た瞬間『うわーっ！広い！　明るい！』と喜んでいただきました」（同小寺英樹校長）

児童・生徒からも好評で、居心地がよく、なかなか出てこない子もいるとか。

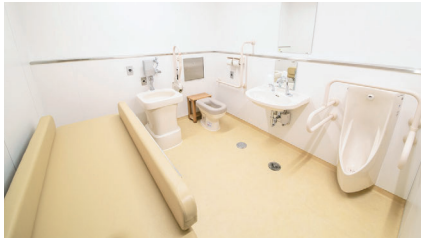
「今回の校舎では設計段階で現場の声を聞き、それを反映できたことがよかった。もし、これから特別支援学校を作る場合には、現場の先生方の意見をよく聞いて、それを反映することが大切だと思います」（勘舎教頭）

昇降口の車いすなどを置くスペース。障がいの状況により、車いす、起立台、歩行器など数種類の補装具を必要とする児童・生徒もいる。

校舎内の温水プールは6月～10月まで使用。プールサイドにトイレが設置され、すぐに入れるようになっている。入り口上にランプがあり使用中かどうか、遠くからでもわかる。

体育館内。重度の障がいのある児童・生徒が多いため、運動場は作らず、体育館を充実させた。クッション性を高めた床で空調冷暖房を完備。

教室内。教室の中には、一人ひとりの障がいに応じたいすが用意されている。



プールサイドの男子トイレ。介助用ベッド、汚物流しなども完備し、さまざまな障がいの児童・生徒に対応できる。

体育館内の男子トイレ。体育館は一般開放もしており、地域開放中はこのトイレを使用する。

教室内でおむつ交換する際は、プラスチックダンボールで手作りした衝立で囲う。

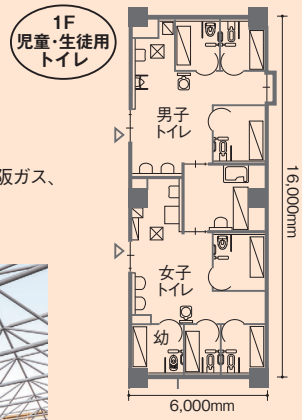
災害時には、学校に1泊できるように、必要なものを保護者に用意してもらい、防災倉庫に置いてある。医療的ケアに必要なものやケア方法が書かれた用紙も入っている。

小寺英樹校長（左）と勘舎晃行教頭（右）。お二人は過去にも特別支援学校で教鞭を執ってきた経験が豊富で、それが新校舎のトイレづくりにも活かされている。

学校マスコットキャラクター「リッツ君」。

尼崎市立あまよう特別支援学校 DATA

名　　称：尼崎市立あまよう特別支援学校
所　在　地：兵庫県尼崎市東難波町2-14-40
児童生徒数：56名（小学部20名、中学部23名、高等部13名）（2020年4月）
施　　主：尼崎市
設計・監理：浦野設計
施　　工：村本・三永共同企業体、阪神設備工業所、大阪ガス、尼崎電機
竣 工 年 月：2019年2月



広々とした空間設計がなされ、さまざまなタイプの便器を配置。すべてのブースに空間確保のための回転式スライドドアを設置し、ブースごとの空調も完備している。